

平成21年7月23日  
筑波大学

## 平成21年度科学技術振興調整費採択課題について

筑波大学では、学際的・先端的な研究の推進や、若手研究者への支援など研究環境の整備を行うとともに、研究水準の向上や研究成果の社会還元・国際貢献に努めてまいりました。

このたび、本学の取り組みが第3期科学技術基本計画に基づく取り組みとして平成21年度科学技術振興調整費の補助事業として以下の課題が採択されましたので、ご報告いたします。

本学は、今後も科学技術システム改革を先導するプログラムに主体的に取り組んでまいります。

### ◇「戦略的環境リーダー育成拠点形成」プログラム

○提案課題名：環境ディプロマティックリーダーの育成拠点

○提案課題の概要：

学長直轄のステアリングコミッティーのもと、本学の既存プログラム、筑波研究学園都市交流協議会、本学と海外拠点・協定機関とで構成される国際コンソーシアムとの連携により、学際カリキュラムからなる修士コース（2年）および博士コース（3年）を構築します。アジア・アフリカ地域において、水資源、生物多様性・バイオ資源、公衆衛生等の技術・政策に精通するとともに、国際交渉、政策立案能力等を有し、環境諸問題を実際に解決できる人材を育成します。留学生に対し、学費免除、英語のみで課程修了し得るシステム提供等の支援を行います。プログラム終了後は、既存専攻の改組により、環境リーダー育成を目的とした新たな学際専攻を設立する予定です。

○事業実施年度 平成21年度～25年度 5年間

○学生受入 平成22年度

### ◇「女性研究者支援モデル育成」プログラム

○提案課題名：持続可能な女性研究者支援、筑波大スタイル

○提案課題の概要：

女性研究者が働きやすい環境の構築を目指して、女性研究者を直接支援する事業として、女性研究者等相談室の設置、出産・育児休暇中の研究支援者派遣・在宅勤務可能なシステム整備・出張時の支援等を実施するほか、アンケートから判明した性差での現状認識の隔たりを解決するための研修等の事業や研究者雇用時の女性研究者コミュニティーへの情報提供等のアクティブプランを、科学技術振興調整費による支援終了後の継続を念頭に置いて、大学の自主事業と連携して実施します。

また、ロールモデルの紹介や、男女共同参画に対する科目を設置するなど、次代の女性研究者を育成する試みを行います。両者の相乗効果により、本学の女性研究者を増加させます。

○事業実施年度 平成21年度～23年度 3年間

# 環境ディプロマティックリーダーの育成拠点(実施内容)

北アフリカ・地中海連携センター、中央アジア国際連携センター、アフリカ開発銀行、モンゴル気象水文研究等、海外拠点・連携機関との協力体制

## 水資源

水循環理解・汚染対策・浄化技術

コミュニケーション

国際関係論

国際環境法

環境政策

国際共同研究  
内外インターンシップ

## 生物多様性・バイオ資源

生態系理解・バイオマス利用・里山保全

国際交渉論

比較文化論

環境ガバナンス

環境倫理

海外実習  
環境ジャーナリズム

## 環境保健衛生

感染症防止対策・保健衛生啓発

生命環境科学研究科・国際連携環境プログラム、バイオディプロマシーコース、持続的農村開発プログラム等を基盤とした学際カリキュラム

地球環境問題は、水、食糧資源、感染症問題等に代表されるように、各地域固有の課題をもつとともに、国単位では解決し得ない国際越境問題を含んでいる。水資源・水処理技術・水環境政策、生物多様性・バイオ資源利用、公衆衛生・疫学・医療政策など、環境技術・環境政策に精通するとともに、地域の実情に即した管理に関する政策提言、立案、実務等ができ、また政策を実現するための国際交渉ができる人材を、環境ディプロマティックリーダーとして養成する。

学位：

- 博士(環境学) : Doctor of Environmental Studies
- 修士(環境科学) : Master of Environmental Sciences

資格：

- 博士相当 : 上級環境ディプロマティックリーダー (Senior Environment Diplomatic Leader)
- 修士相当 : 環境ディプロマティックリーダー (Environment Diplomatic Leader)

# 「持続可能な女性研究者支援、筑波大スタイル」実施内容

